

---

# 第2回 下呂市廃棄物減量等推進審議会 議事録

## (概要版)

---

【日時】 令和4年3月23日 火曜日 10時から12時

【場所】 下呂市民会館 2階 大会議室

【次第】 1 開会  
2 あいさつ  
3 協議事項  
4 その他  
5 閉会

【出席者】

西 博志 ☆会長  
青木 幸美 ☆会長職務代理者  
守富 寛 ☆学識経験者  
小林 美彦  
福村 晃一  
山口 隆士  
中川 好美  
石原 眞紀子  
米野 英一  
中村 好一  
今井 久仁子  
松岡 守

【欠席者】

佐伯 露子  
田口 茂博

【事務局】

小畑 一郎 (環境部長)  
波多野 一樹 (環境課長)  
中川 直哉 (環境課 課長補佐)  
熊崎 泰士 (環境課 主査)

## 【議事等の概要】

### 1. 開会

略

### 2. あいさつ

略

### 3. 協議事項

#### 1) 資源ごみの回収方法について

【事務局より説明】資料1、担当課からの提案（実施素案）

会 長：資源ごみ排出方法について、素案が提示されました。旧4町1村に其々設置が理想ではありませんが、モデルとして3箇所挙がっております。皆様は如何様にお考えですか。

委 員：大型販売店さんでの店頭回収BOXにペットボトル用等も増設すれば、買い物ついでにリサイクルの習慣を生み出す事ができ、事業者との提携や協働が良いと思う。回収品目に関しては、ガラスや瀬戸物などにも踏み込んだ内容にしないと真の意味をなさない。

委 員：素案の区域では、人口も少なく、各自持参につき、殆ど集積しないと想像する。本来目的である資源循環型社会を目指す趣旨について、市民への徹底した意識付けが必要。

委 員：素案は、どうしても小手先だけのやり方に見える。真のリサイクルを考え、目的を強力にアピールし、最先端のイメージで、資源物を大規模回収する様な施設の設置が良いのでは。

委 員：素案は、家計負担の軽減には繋がるものの、市民の利便性に着眼しますと芳しくない。初の試みにつき、市民PRや一定ルール設定により、良い方向も考えられるが、市財政を考慮しながら進める事も肝心。

委 員：令和4年度からモデル拠点回収開始は如何か。速めの実践が肝心。先ずは出発しないと中々市民の声を集約できない。想像できない部分もある。4年度から一步を踏み出すのが理想。

委 員：市民運動の一環として前向きに皆で協力し合い、取り組んでゆく事が大事。深刻な海洋汚染問題もある。80代を盾に甘えている様ではダメ。市民の考え方を変えていく必要性も感じる。

委 員：理想は、もっと拠点が欲しいが、先ずは実証して市民の声を拾い上げ、最善方向へと導入されたい。PTA等の資源回収品目にも配慮など色々考慮での素案かと思う。アクションを起こすのが先と感じている。

委 員：意識浸透を広め、将来に向け子供達に教育していくことが大事。環境教育の一環として学校敷地の中でエコステーションを設け、市民がいつでも排出できる状況を作り、例えば幅広であり各家庭でも最も邪魔物扱いされるダンボールを回収し、子供たちが整理し、ルールが守られないなどの課題についても考え、地域の人に呼び掛けるなどの仕組みを考えている。色々な所で出来ることからの実施を考えるのが大事と思う。

委員：大型店舗さんによる店頭回収や、資源回収団体さんの活動を知らない方も見えると思うので、周知していくことも大事。モデル拠点回収についても、速く出来る所、速く手掛けるべき物から始め、少しずつでも成果を見ながら実証できると良い。

委員：資源としての利活用を認知してもらおう事、下呂市として資源になる物は回収してリサイクルして有効活用、この資源循環の仕組みを広く市民周知する事が一つの鍵と感じる。

委員：素案を実施してみることが良い。岐阜市方面では民間の常設エコステーション利用が大多数。それら民間エコステーションには監視カメラを見受けず、それなりに上手く運営の様子。考え方としては、民間の経営手法を取り入れる事も一つの手段。リサイクルの基本を周知徹底強化のご意見が非常に重要で、川の流れに置き換えて考えた場合、回収する川上（上流）の問題。川中（中流）の中間業者、集まった川下（下流）の再生工場等でどう処理され、最終的に再生品として活用される。その流れの見える化が行政として非常に重要。結果的に上流側の回収方法を変えると、どう流れていくかのフォローアップが必須。コスト面に着眼すると、参照資料1に、燃えるごみ専用袋の製作費用が表されているが、その袋を焼却している現状の改善余地があり、結果的に市の負担も削減させる。コンテナや拠点施設への転換に関し、具体的な費用対効果の検討、直営か民営かの比較、加えて環境教育・学習の効果などを考える。それらが私の考えるところ。

会長：色々な問題を含めながら全ての網羅は、不可能と思うが、各ご意見の中で、直ぐに取り組める場合、効果のPRと必要性を周知し、出来る事から実行。それからまた意見を聞きながら修正点を見直してゆく事が肝心。学校が行うエコステーションは、環境教育としてすごく意味が在り、普段の資源回収の負担軽減にも繋がり、是非、実施いただければ有難い。

事務局：今回、市の素案を提示しましたが、色々なアイデアを提言していただき、それを政策的に実現するべく市の方で知恵を絞り、その中で地域や企業の方との連携し、市民の方々のご協力も要します。また、採算性ではなく、良好な環境を次世代へ継承するために必要な施策は、投資すべきと考えます。カーボンニュートラルに向けた国際的な動きが加速し、下呂市が環境問題に進むのはいいことだと捉えています。

委員：市の覚悟が一番の問題。こういう形でこうなるから、民間に協力して下さい。という様に話さないと中途半端に終わる可能性大。市が資源ごみをどこまで、どの様にしていくかが重要。

事務局：これは出口の問題が非常に大きく、例えば、プラスチック容器包装等のリサイクルマーク品は、分別すれば資源になりますが、現時点ではと色々弊害が考えられます。現状では焼却している物が多く、それらの資源化ルート構築などが一つの検討材料です。

委員：私共の資源回収活動では、雑紙類を大きな紙袋に詰め込んでいただき、そのまま引き渡している。これらの取り組みで相当の雑紙類の資源化が可能につき、雑紙類回収の検討を奨める。

委員：それ（雑紙）は、まとめて業者に持参した場合、資源引き取りされるのであれば、その様な対応を考えれば良いと思う。

委員：引取り業者さんの匙加減もあると思われ、確認のうえ検討いただければ良い。

委員：そもそもの視点として資源ごみ無料化なのか、廃棄物減量なのか、地球温暖化対策なのか、混乱しており、最終目的が不鮮明。また、業者が実施することを市も取り組むのは、疑問符。民間の取り組みをPRすれば良い。民間が実施しない資源ごみを市が手掛けるのが必要。その他、下呂市の場合は市施設の燃焼効率に足かせとなっている温泉街の生ごみ処理、これを根本から改革しないと、僅かな物からの資源化・減量化では話にはならない。

事務局：事業系のごみについても課題がございますが、今回の審議会では、家庭ごみに絞りご意見を頂戴したいと思います。

会長：下呂市の地域特性上、関連業からの生ごみ量は多いと思うが、この度の審議会は家庭から排出される資源ごみを主眼とのことで、目標を定め、それに向かって各意見を集約していきたい。いかに効率良く燃やすのかという問題、生ごみ等々色々なごみを焼却するので排出ガス問題なども燃焼率が変われば、燃費も良くなり、施設耐久性の面でも良いかと思う。家庭ごみだけではなく、ごみ全体の事を考慮しないと中々できない部分もあると思われ、せつかくの廃棄物減量等推進を審議する会であり、そういった意見も在ることも答申したい、令和5年度からの実践という事で、十分に審議しながら、答申ができれば良いという思い。

委員：利用度ですとか、空回りしないかという危惧はしますが、手掛けていく事の重要性、実施に際し、負の印象は無いと思われ、先ずは実行してみるのが良いかと思う。

会長：市としても何かアクションを起こさないといけないでしょうし、市民へ周知することや、取り組みの重要性を認知してもらうことも必要、素案をもう少し煮詰めたい。

委員：皆さんの各意見ご発言を集約しますと、一に減量にターゲットを置く、二に家庭における不燃物を中心とした資源化と思う。ごみ減量という意味では、国や県が推し進めている食品ロス削減を、旅館飲食業さん中心に取り組んでいただくのも効果ありと思う。水分の多い分だけ、燃えにくいのは確かであり、家庭から出る生ごみ等の水切りや、乾燥させての排出など一つの手なのかもしれないが、あまり広げず集中した方が良いケースもあるので、総合的に捉え、食品ロスも視野とするのが良いと思う。

会長：一般廃棄物の減量化や再資源の問題には、行政や市民レベルの取り組みの他、容器包装リサイクル法では大手事業者へも義務付けもあり、そういったことまで考えると大きな会になってきますが、手短にできることの実行への提言がこの会の第一目標。食品ロス削減も重要であり、意識改革も必要。家庭では、食べる物しか買わないなど基本的事項から手掛け、徐々に広げていけば、減量問題も解決できていくという思い。

皆様から多くの意見をいただきましたので、素案につきましては、もう少し肉付けし、方向付けが決まれば、委員の皆様にご案内していただければと思います。

事務局：学校での具体的な取組み内容を詳しく照会していただければと思います。

委員：学校に新しい倉庫ができますのでその中にエコステーションのエリアを一つ作ります。そこでは、各家庭で保管するうえで一番邪魔であろうダンボールを市民の方や供たちが持参し、それを整理しまとめて、業者さんに引き渡すことを予定しています。その中で資源回収の補助金交付対象団体として取り扱っていただければ、それを生徒会の活動資金に充てる仕組みづくりがウィンウィンにもなる、排出・回収の両者の思いが共有できる様な手法を採りたい。

委員：尾崎小学校（コミュニティスクール）でも既に新聞雑誌、アルミ缶、ダンボール、雑紙（菓子箱等）の回収を既に実施されています。

委員：いろんな学校で資源回収の活動が検討されているようです。

委員：民間事業者が取り扱っている品目、処理能力といった情報を示していただきたい。

事務局：現在調査中ですので、次回に提示とさせていただきます。

会長：できることから順に実行していくことが必要だと思いますし、せっかくの素案でありますので、（事務局には、）できればこのような形で、もっと具体的対策等を示して欲しい。それでは、本日の会は終了となりますが、事務局からの伝達事項等は？

以降は、次回開催日程等についてのため、記載を省略

議事録署名

山口隆子 

議事録署名

今井久仁子 